

目次

『狭衣物語』の〈幼さ〉についての一考察

——嵯峨院女三の宮をめぐる——

塩見 香奈 2

宮中における「左義長」考

——徒然草一八〇段「さぎちやう」と「ほふじやうじゆ」について——

櫻井 靖久 16

《翻刻》『画口合相撲 地巻』（その三・全三回）

中島 穂高 28

「私自身の読者にのみ語り得る」物語——有島武郎「酒狂」論——

石井 花奈 36

『北支物情』・『従軍五十日』の同時代評価

——岸田國士の昭和一〇年代を考えるために——

松本 和也 50

「同類」を「憫笑」するために

——梅崎春生「山名の場合」における「ユーモア」と「ニヒリズム」——

渡部 裕太 64

国語科教材としての安部公房「赤い繭」 試論

河田 綾 78

『季刊藝術』と旧世代作家再起の季節 序章

後藤 潤 90

錯綜する境界線——多和田葉子「ペルソナ」論——

正田 雅昭 104

藤原定家「六百番歌合百首」覚書

加藤 睦 118

書評 浅野洋著『小説の〈顔〉』

藤井 貴志 131

新刊紹介

135

編集後記